

令和7年度 後期学校評価

- 学校関係者評価
- 自己評価
- 児童アンケート
- 保護者アンケート



小中一貫校

南アルプス市立 白根東小学校

令和7年度 白根東小学校 後期学校評価

○学校関係者評価委員会より

- ・ 前期、後期は、いつアンケートをとったものか。

→職員の自己評価、自動アンケートは、前期は7月、後期は12月。保護者アンケートは、12月に実施した。

- ・ 児童の回答率は、ほぼ100%だと思うが、保護者の回答率はどのくらいか。

→児童一人につき、一回答としていて、248名中213名の回答があった。(回答率85.9%)

- ・ 南アルプス市で統一された質問項目なのか。

→共通して設定している項目はあるが、学校でそれぞれ質問項目は違っている。

- 教職員の自己評価項目(14)「白根東小学校はいい学校だと思う。」に、「4」と回答する職員が増えていること、児童アンケートの質問項目(13)「学校で楽しみなことは何ですか。」の回答に「友達」と記入する児童が増えていること、保護者アンケートの肯定的回答結果の割合を見ると、先生方の日々の努力が現れ、白根東小学校が良い学校であることが分かる。今後も、「五本の木」を大切にしながら取り組みを進めていってほしい。

- △ 保護者アンケートの記述欄の項目に、「お子さんの自慢があったら、書いてください。」等の児童を褒める材料になるような項目を入れてみるのはどうか。そうすることにより、児童にも良い影響があるし、保護者も自分の子供の良さを確認できる機会となるのではないか。

- △ CHAT GPTのような、生成AIを学校で児童が使用しているのか。多分、家庭では、使うことも増えていると思う。今後、どのように使わせていくのか、検討が必要だったり、指導が必要だったりしてくるのではないか。

→現在、児童が学校で生成AIを使用していることはないが、今後、情報モラル教育とともに、指導が必要になると感じている。

- △ 児童アンケートや保護者アンケートは、結果を児童や保護者に返しているのか。

→保護者アンケートは、学校のホームページで公開している。児童アンケートは、今後の教育活動の参考資料にはしているが、児童に返すことはしてこなかった。

→児童アンケートも、児童のやる気につながるように返していくことができるとよいのではないか。

<まとめ>

学校評価については、肯定的評価が多く、白根東小学校の教育活動は、良い成果を上げているという評価をいただいた。また、上記のように、学校評価を教育活動により生かしていく前向きな提案をいただくことができた。児童アンケートの児童へのフィードバックについては、今年度中に行いたい。また、保護者アンケートへの質問項目の追加については、来年度検討し、追加していきたいと考えている。後期の学校評価と現在の学校の実情も踏まえ、来年度の学校経営方針についても提案を行った。2月中にそれに関しても、ご意見・ご示唆をいただく予定である。

学校関係者評価を行うことによって、学校外から新しい風を学校内に取り入れていくことができると今回、あらためて実感することができた。今回出された貴重なご意見を、来年度の教育活動に活かしていきたい。

令和7年度 白根東小学校 後期教職員自己評価結果及び考察

1. 成果が上がってきていること

○学校教育目標・目指す児童像・校訓を意識して教育活動を進めている。

本校の様々な教育活動の中心に、「やる気・元気・根気・勇気・思いやり」の「五本の木」が据えられ、成果を上げてきている。

○マネジメントサイクル（PDCA）で、より良いものに改善を図ろうとしている。

教育活動や行事ごとに目標や振り返りを行い、より良い活動にしていこうという意識が見られる。

○学校が「きっかけ」をつくり、保護者とも連携し、児童の学習習慣が確立するよう努めている。

昨年度より、4と回答する職員が多くなっている。「家庭学習がんばろう週間」の取組などを通して、自主学習に頑張っている児童が多い。

○児童理解・生徒指導・特別支援の観点に立ち、児童の特性に応じた（組織的な）指導に努めている。

児童の情報共有を密に行い、全校体制で児童への支援・指導を行ってきた成果が見られる。また、できる限り早期対応を心がけ、体制を整えるようにしてきた。

○白根東小学校はいい学校だと思う。

教職員が、学校に愛着を持って教育活動を推進できている。また、学校として成果が実感できる状態である。

2. 課題となること

○学校評価・一校一実践一人一実践・人事評価制度・校内研・各種研修を通し、自分を磨き、専門性を高めようとしている。

校内研の取組や授業づくりの実践等、充実していた2学期であった。しかし、充実した研究が進んでいるからこそ、さらに自身の力量を高めていきたいと感じた職員も多いのではないかと考える。

○危機管理（事故・加害行為・災害等・個人情報・綱紀保持等）を意識し、教育活動等に当たっている。

教職員が危機に直面した時、どのように対応していくか、研修を充実させていく。

綱紀保持についても、今後も折に触れ、話しをしていく。

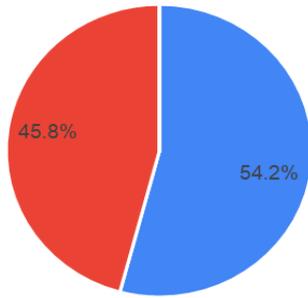
○基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を目指した指導に努めている。

児童アンケートの「授業はわかりますか」という項目と回答がリンクしている。学年によっては、2学期の学習内容が複雑になってきたことや、行事の取組などで、もう少し学習の充実を図りたかったという職員の思いもあったのかもしれない。さらなる授業改善への取組を進めていく。

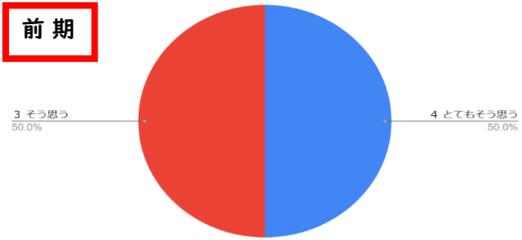
4:とてもそう思う 3:そう思う 2:あまり思わない 1:思わない

(1) 学校教育目標・目指す児童像・校訓を意識して、教育活動を進めている。

後期



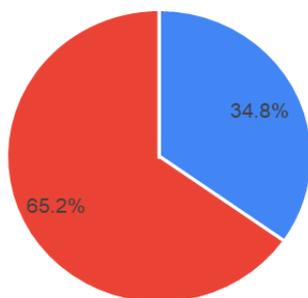
前期



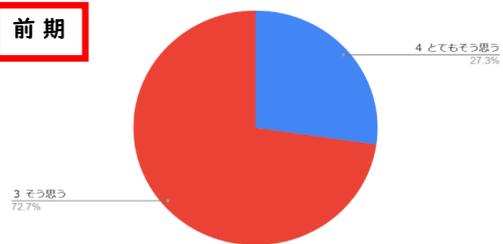
前期同様、教職員の共通理解のもと、教育活動を進めることができていると捉えることができる。校訓については、児童のアンケートでも、97%以上の児童が肯定的回答をしており、引き続き、「5本の木」を意識して教育活動を展開していきたい。さらに、教育活動の成果として、目指す児童像や学校教育目標を常に振り返りながら、随時、教育活動の内容の精選と充実に努めていきたい。

(2) マネジメントサイクル (PDCA) で、より良いものに改善を図ろうとしている。

後期



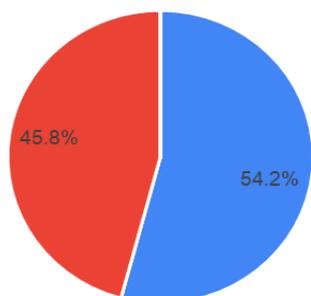
前期



行事等においては、計画段階で十分討議をしながら実施し、終了後には成果と課題を挙げ、次回
の取組に生かすことができている。今年度の多くの行事に取り組んできたが、昨年度の課題を克服
できるようブラッシュアップを心がけ、実施することができた成果であると捉えることができる。
教科担任制についても、高学年だけではなく、低・中学年でも少しずつ行うことができ、来年度へ
のステップアップとしていきたい。

(3) 他の教職員と連絡調整・コミュニケーションを図りながら、(組織的・協働的に) 教育活動にあたっている。

後期



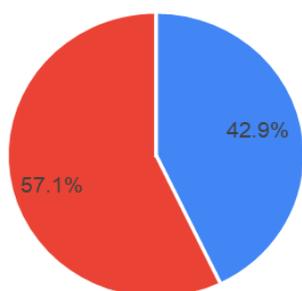
前期



後期も、教職員同士の連絡調整を密にとりながら、教育活動を進めるようにしてきた。また、分掌主任や担当に負担が過重にかかることがないよう、全教職員で協働的に仕事ができるようコミュニケーションを取りながら教育活動を進めてきている成果も出ている。今後も、組織を意識して、

(4) 学校評価・一校一実践一人一実践・人事評価制度・校内研・各種研修を通し、自分を磨き専門性を高めようとしている。

後期



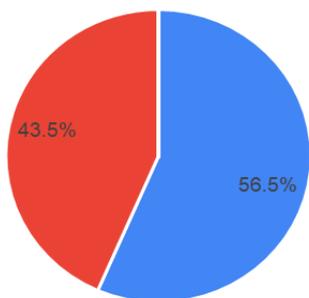
前期



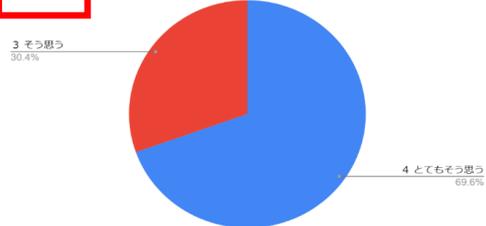
校内研究では、低・高学年での研究授業の取組をはじめ、一人一実践として、担任をはじめ、授業を担当している教職員は、授業づくりに取り組むことができた。研究授業には、外部講師を招くことによって、算数の授業づくりについて学び、学校全体として授業力を高めていくことができた。「とてもそう思う」の比率が少し減少しているが、教職員が専門性を高めることにより意欲的になっている側面が現れているのではないかと。

(5) 危機管理(事故・加害行為・災害等・個人情報・綱紀保持等)を意識し、教育活動等に当たっている。

後期



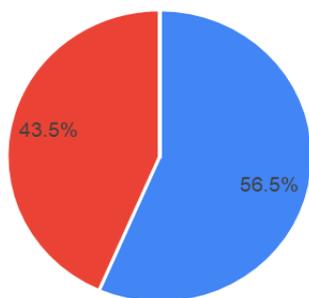
前期



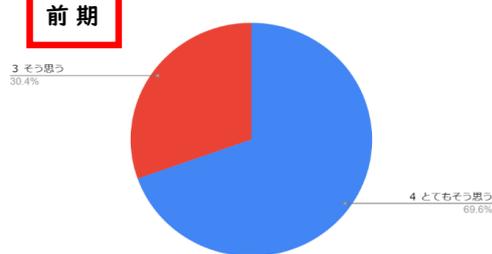
危機管理については、いつ、何が起こるか不確定な中で、予防、準備等が必要になってくる。児童の心身の健康や安全に関することについては、最悪の事態を想定しながらより実践的な避難訓練等の計画や児童の実態把握に努めていく。児童への安全教育だけではなく、教職員への研修の機会も増やしていきたいと考えている。教職員の服務規律の確保については、今後も折に触れて職員室の話題とし、職員間のコミュニケーションを深めていく。

(6) 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を目指した指導に努めている。

後期



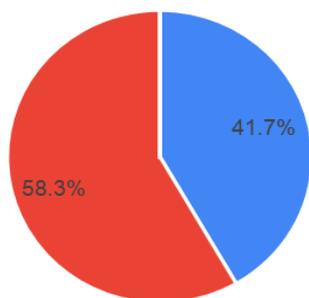
前期



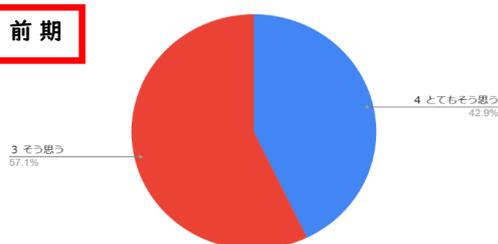
2学期は、行事や高柿学習が多く、授業を落ち着いて進められない時期もあったが、教職員が基礎的・基本的な知識及び技能の習得を目指して授業改善に取り組んでいる。児童一人一人の基礎的な力を高めていくことで、関わり合って学んでいく力も伸びていくので、今後も、児童の基礎的・基本的な力を伸ばしていけるような授業づくりに取り組んでいきたい。

(7)「関わりあい高めあう」授業(校内研テーマ)を通して、思考力・判断力・表現力及び主体的な学習態度の育成に努めている。

後期



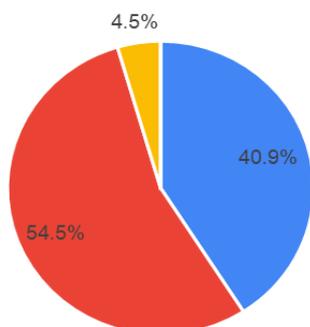
前期



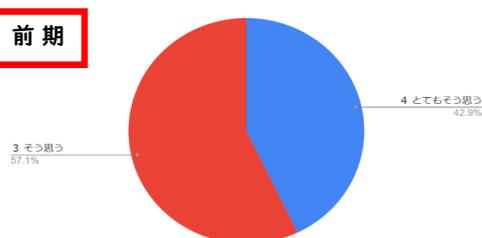
「関わりあい高めあう」ことへの意識が高く保たれており、思考力・判断力・表現力の育成が必要であると考えているのではないかという傾向が見られる。児童同士の学び合いを授業の中でどのように仕組んでいくのか、今後さらに研究を深めていきたい。また、ICTの活用についても、積極的に進めていきたい。

(8) 学校が「きっかけ」をつくり、保護者とも連携し、児童の学習習慣が確立するよう努めている。

後期



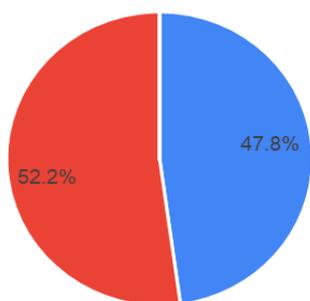
前期



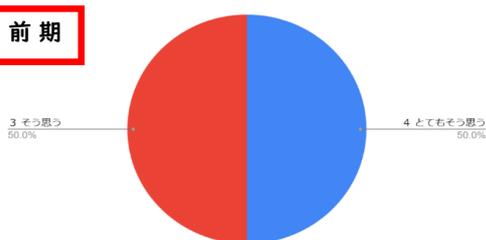
児童が、今後、生涯を通じて学びを深めていくことができるようにするために、学習習慣の確立の取組は必要不可欠である。児童一人一人が「学び方」を理解し、自分の興味関心に応じて、学びを深めていけるようにしていきたい。保護者アンケートからも、家庭での学習が身についていると回答した割合が高いことから、引き続き、宿題の取り組み方を含め、各家庭とも連携を取りながら、児童の学習習慣の確立に努めていきたい。

(9) 児童理解に基づき、ルールとリレーションのある学級・学年・集団づくりに努めている。

後期



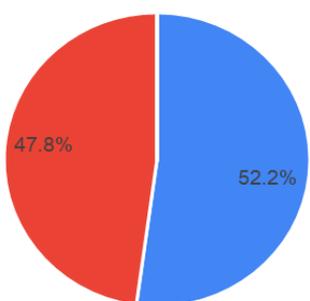
前期



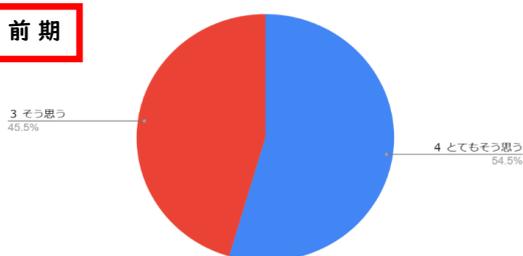
各学級で、児童理解を進め、一人一人が学級集団の中で輝いていけるよう、さらに、集団としての力も高めていけるよう、今後も取組を進めていきたい。Q-Uや学級力アンケート等を上手に活用しながら、一人一人に居場所のある集団づくりに努めていきたい。

(10) いじめ・不登校・問題行動・トラブル等の未然防止ならびに発生した場合の適切な対処に努めている。

後期



前期

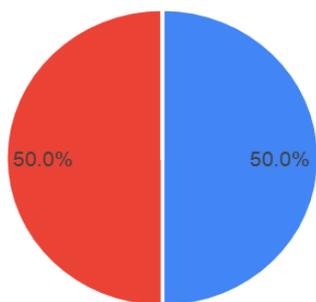


いじめに関しては、昨年度末に見直した「いじめ防止基本方針」に沿って、2学期もいじめアンケートをもとに「いじめ防止対策委員会」を開催し、早期発見、早期対応に心がけてきた。また、不登校傾向の児童に対する対応についても、各関係機関との連携を図りながら、改善していけるよう取り組んでいる最中である。

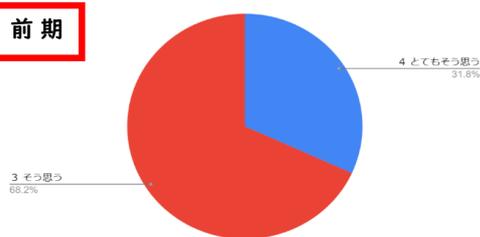
今後も、児童理解を基本に、個々のケースに応じた対応ができるよう教職員間の共通理解を深めていきたい。

(11) 児童理解・生徒指導・特別支援の観点に立ち、児童の特性に応じた(組織的な)指導に努めている。

後期



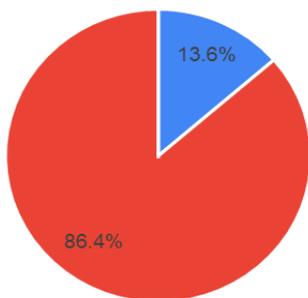
前期



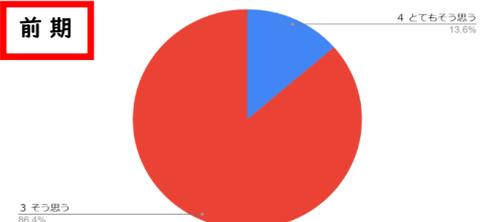
児童への指導・支援については、どの教職員も同じ支援・指導ができるよう心がけてきたことにより、肯定的評価の向上につながっている。児童の様子については、今後も引き続き、職員会議等の際に情報共有を行っていくとともに、一部の教職員だけが対応していくのではなく、組織的な早期の対応を心がけていく。

(12) 小中一貫校として目指す児童生徒像を理解し、そのための取組や教育課程を意識して行っている。

後期



前期

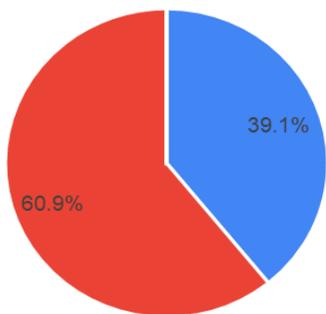


年3回の小中一貫教育研究会において、白根飯野小、白根巨摩中の先生方とも協力して取組を行っている。2学期も、小中合同のあいさつ運動を行ったり、中学校の学園祭を6年生が参観したりという活動を行った。今後も引き続き、児童生徒間、教職員間も交流を進め、9年間を見通した教育活動が展開できるようさらに研究を深めていきたい。

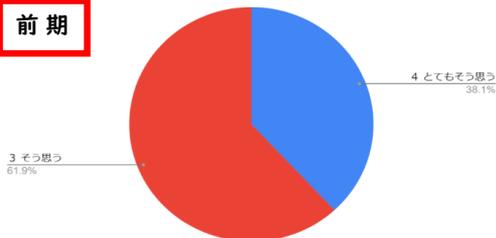
また、小中一貫教育の取組について、保護者や地域にもっと発信していくことが必要であると考ええる。

(13) 保護者・地域(及び関係機関)との連携・協力を努めている。

後期



前期

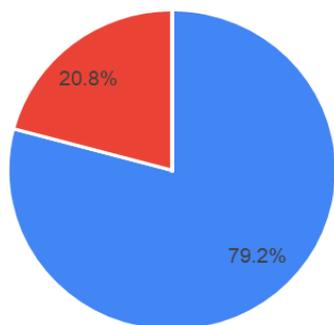


本校は、登下校時の見守り等において、多くのボランティアの方の御協力を得ている。地域の方々や保護者の皆様に児童が温かく見守られていると感謝している。

「学校運営協議会」(コミュニティ・スクール)の取組がスタートしているので、協議会も活用しながらより地域の中の学校として存在できるよう、学校の取組や児童の様子について、地域に発信していきたい。

(14) 白根東小はいい学校だと思う。

後期



前期



「とてもそう思う」という職員が多かった。前向きに教育活動に取り組んでいる結果である。児童も教職員も、保護者も地域の方々も、「白根東小学校は良い学校だ」と思えるような取り組みをこれからも推進していきたい。本校に関わる全ての人が笑顔で学校について会話が交わせる姿を目指していきたい。

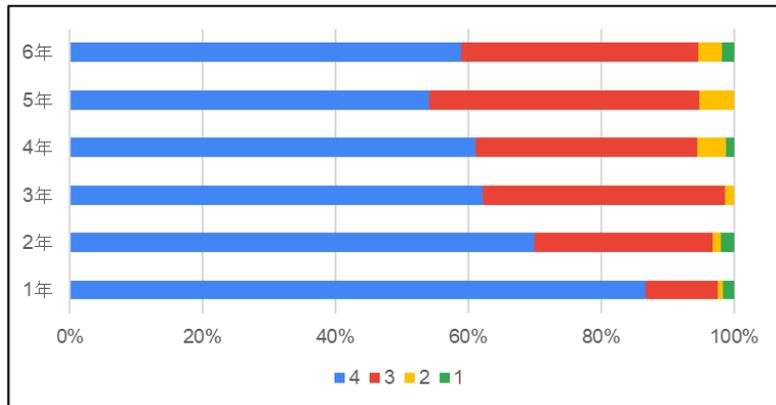
令和7年度 白根東小学校 後期児童アンケートの結果及び考察

4:とてもそう思う 3:そう思う 2:あまり思わない 1:思わない

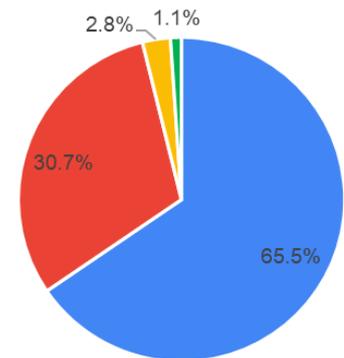
(1)いろいろなことに「やる気」「元気」「根気」「勇気」「思いやり」をもって取り組んでいますか。

前期

<各学年>

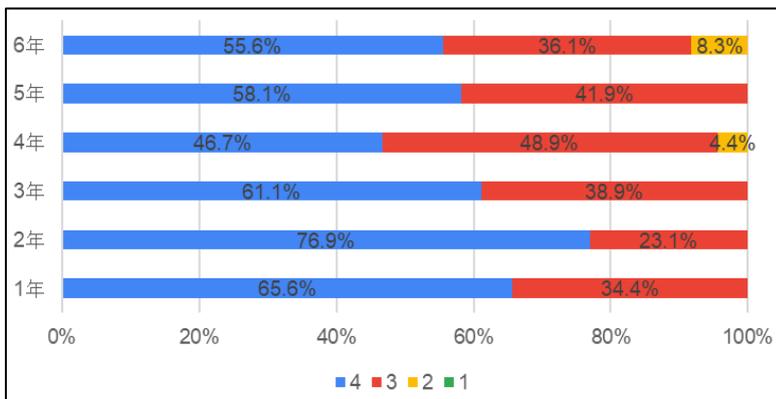


<全校>

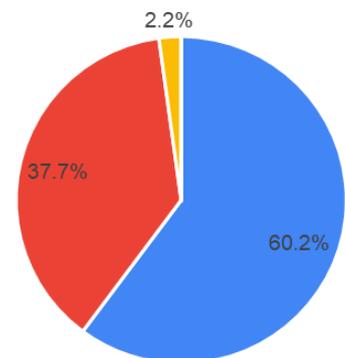


後期

<各学年>



<全校>



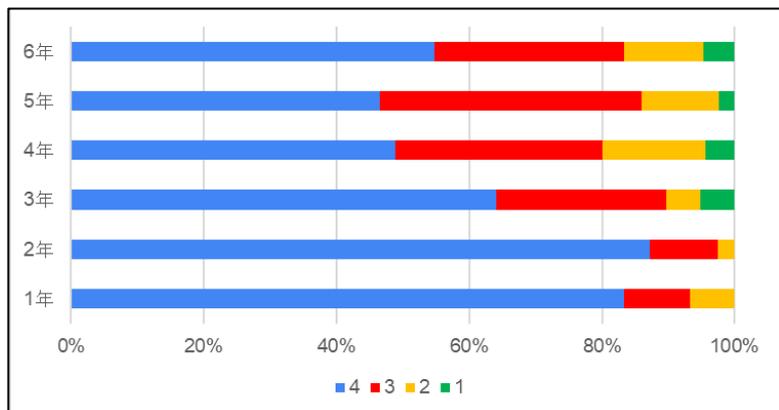
後期は、1と回答した児童はいなかった。また、3、4のみの回答という学年も増えている。児童の中に、「校訓」が浸透し、学習や生活に取り組んでいることが分かる。

具体的には、運動会や音楽発表会などの行事を通して、仲間と一緒に1つのことをやり遂げる充実感を味わうことができたり、普段の学習や生活の中で小さなことでも児童の頑張りの過程を認めたりするようにしてきた成果であると捉える。しかし、保護者アンケートでは、「根気」が足りないのでは、と感じている保護者も見られることから、今後も引き続き、児童の頑張りの過程を認める声掛けや支援をしていきたい。

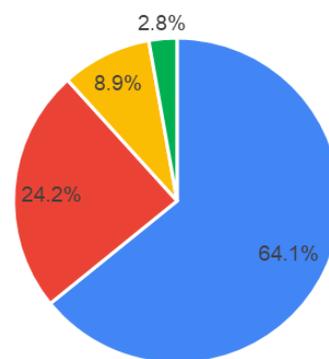
(2) 学校が楽しいですか。

前期

<各学年>

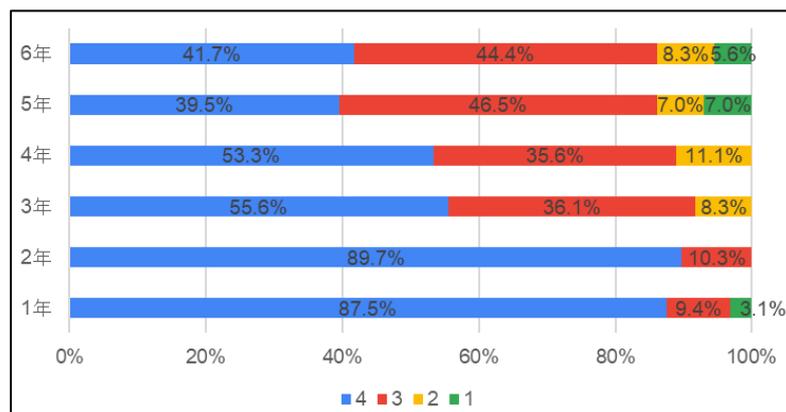


<全校>

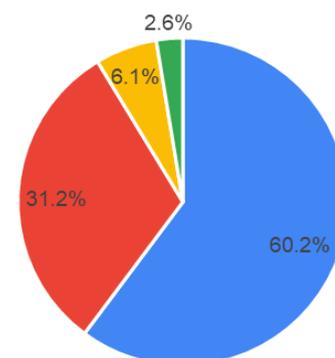


後期

<各学年>



<全校>

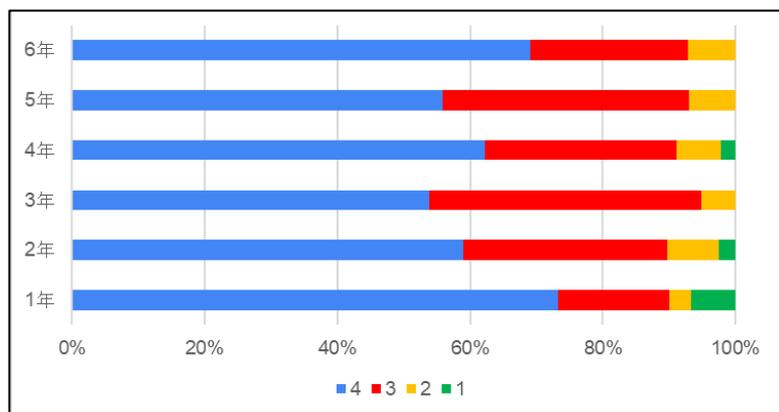


前期より「学校は楽しい。」と回答している児童が少しではあるが増えている。2学期の様々な活動を通して、児童が学校生活に前向きに取り組んでいることが分かる。今後は、1, 2 と回答している児童の気持ちを把握できるようにしていくとともに、高学年で1 と回答している児童が増加していることから、学習や行事等、児童の負担になっている部分があるのか実態把握に努め、児童が前向きに学校生活に取り組んでいけるようにしていきたい。今まで取り組んできているシンプル・プログラムなどの取組を通して、児童同士のコミュニケーションもさらに深められるようにしていきたい。

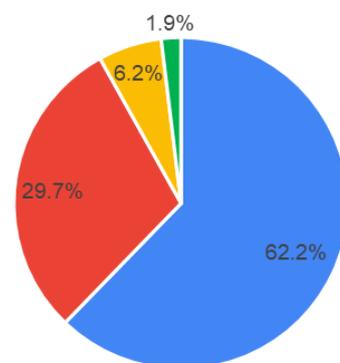
(3)分からないとき・困ったときに、話しかけられる友達がありますか。

前期

<各学年>

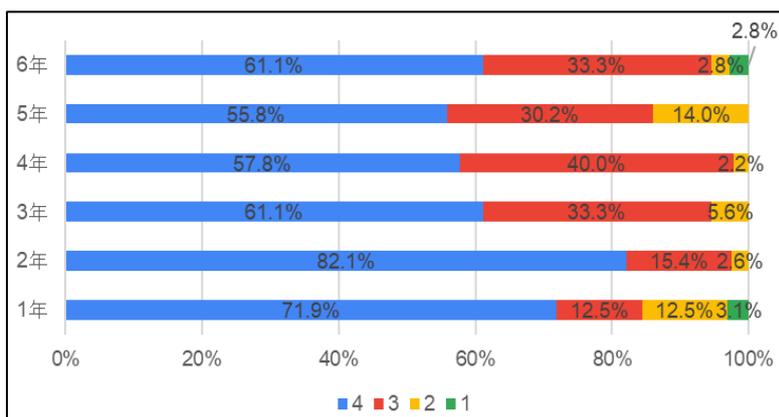


<全校>

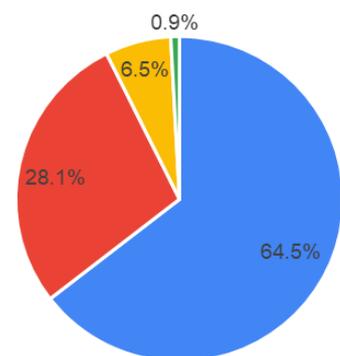


後期

<各学年>



<全校>

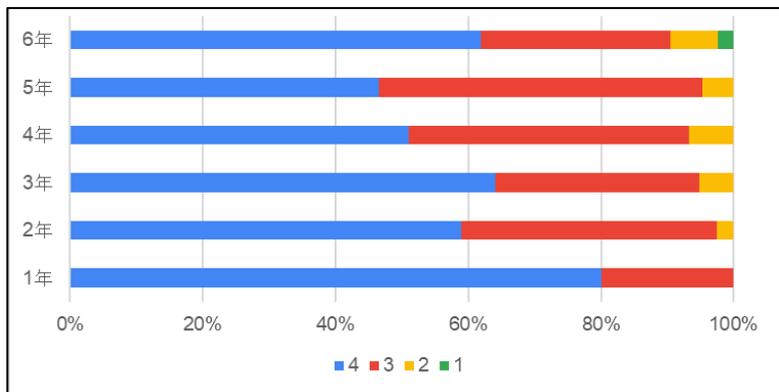


後期も9割以上の児童が肯定的な回答をしていて、児童同士の関係性が良好であることが分かる。一方、一定数の児童は否定的な回答をしていて、引き続き、支援が必要なが分かった。否定的な回答が減少している学年もあることから、学年間の情報共有を進めるとともに、今後も、「スリンプル・プログラム」を中心とし、学校生活全般を通して、児童同士の関係を深められるような活動に取り組んでいきたい。

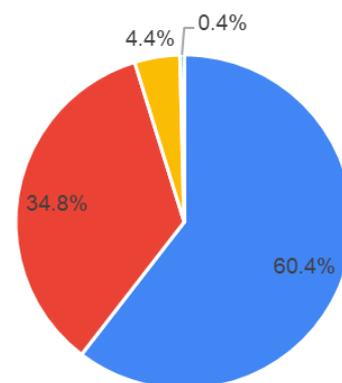
(4)授業は分かりますか。

前期

<各学年>

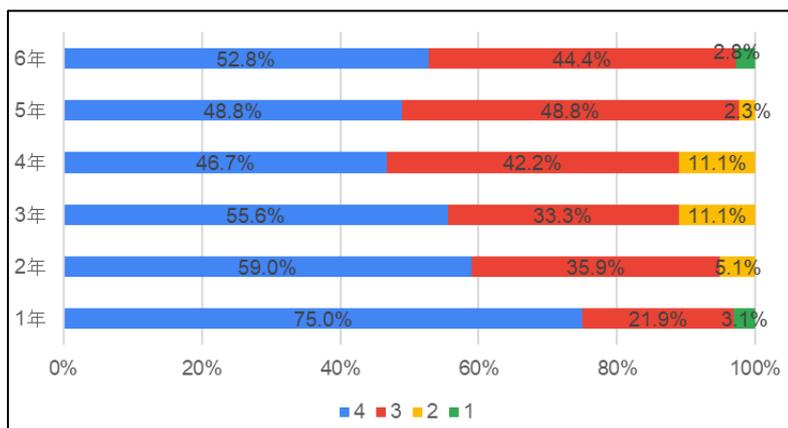


<全校>

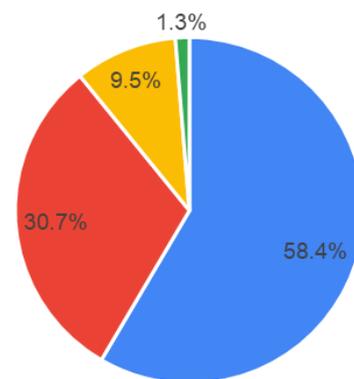


後期

<各学年>



<全校>

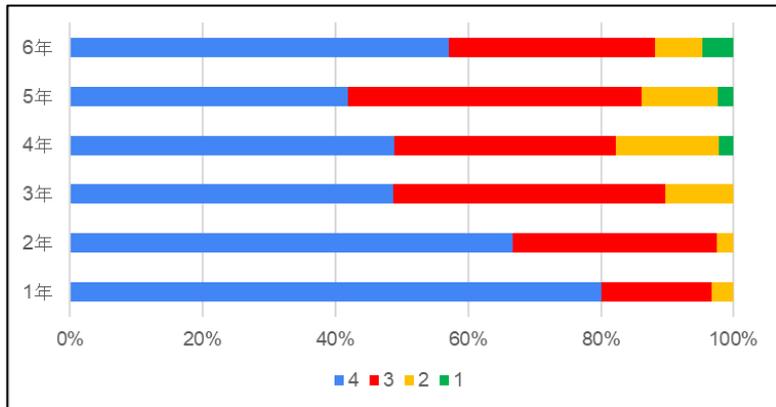


90%近くの児童は肯定的に回答しているが、肯定的な回答を示す児童が減少している。これは、職員の自己評価の(6)「基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を目指した指導に努めている」の項目(「とてもそう思う」前期69.6%、後期56.5%)ともリンクしている結果である。2学期は、各学年とも学習内容が増加し、高学年は単元によっては、学習の理解に時間がかかるものがあったのも一因であると考えられる。常に授業改善の意識をもって教材研究等を進め、分かりやすい授業づくりを目指しているが、今後さらに、児童の実態を見極め、教材や時間数の工夫を行いながら、「分かる授業」の継続に全教職員で努めていきたい。

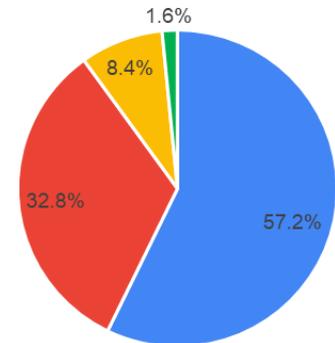
(5)勉強で分からない時には、先生や友達に聞いていますか。

前期

<各学年>

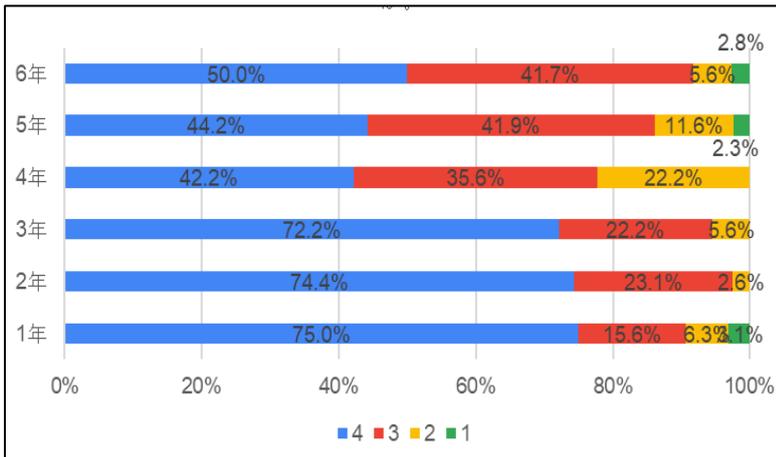


<全校>

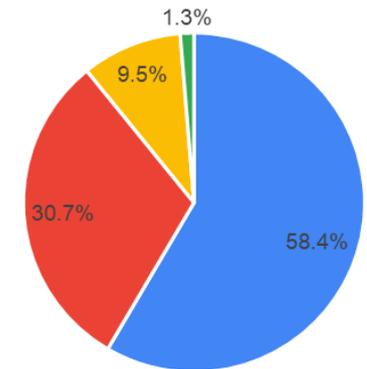


後期

<各学年>



<全校>

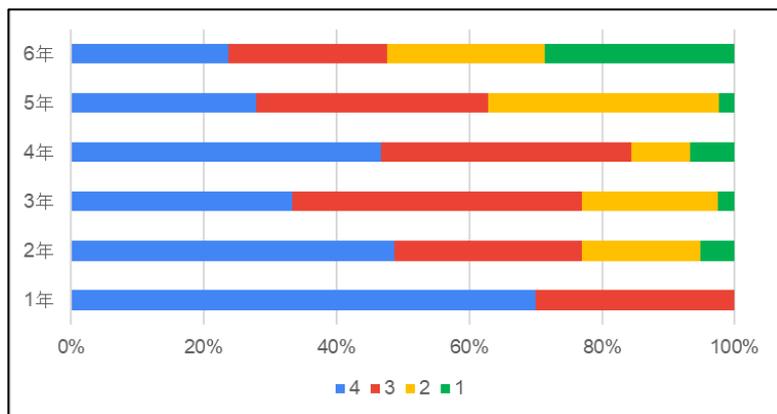


後期も、90%近くの児童が肯定的な回答をしていて、低学年程その割合は高くなっている。一方、1年生での否定的な回答が増えてきている。学習が進み、少しずつ自分の苦手な分野を意識し始めていると考えられる。今後も、「聞きにくい」「聞けない」と思っている児童にスポットを当て、できる限り、教職員が積極的に声掛けを行うようにしていきたい。前項目とも関わってくるが、今後も「分かる」授業づくりに取り組み、さらには、相談しやすい、友達と一緒に授業をつくっていくという雰囲気づくりに努めていきたい。

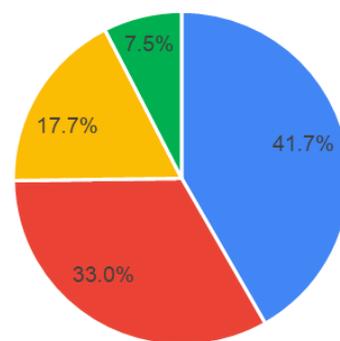
(6)授業中に、手を挙げたり自分の考えを言ったりしていますか。

前期

<各学年>

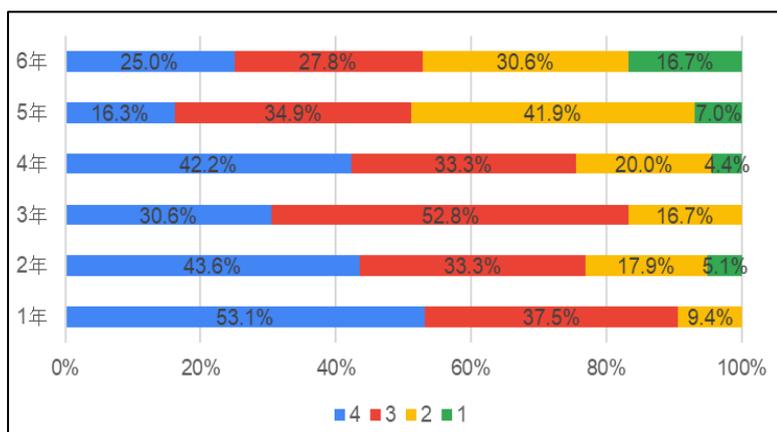


<全校>

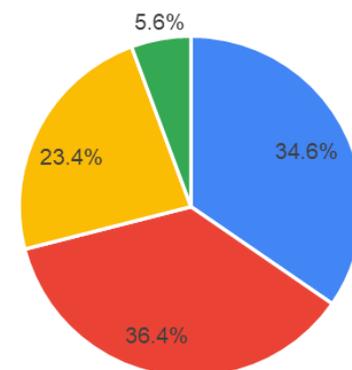


後期

<各学年>



<全校>

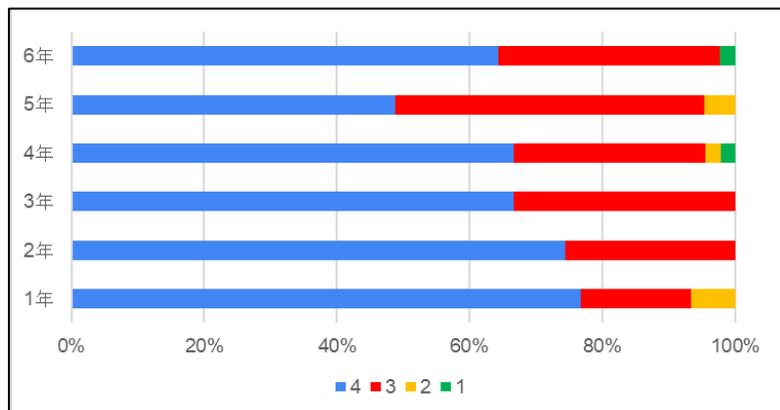


高学年では、肯定的な回答が少なくなっている。また、全校でも、否定的な回答をする児童が増加している。(4)の項目とも関わり、児童の中に、「正解でなければ…」という思いや「自分の考えを言うのは、恥ずかしい。」という思いもあるのかもしれない。(3)や(5)とも関わり、学級の中では、どんな意見や考えも大事にしていくという雰囲気を醸成できるよう、取組を進めていきたい。自分の考えを伝える方法はたくさんあるので、声に出して発表することが苦手な児童には、記述を使った表出やPCを使った発表も勧めていきたい。今後も、自分の考えを表出する様々な方法があることを児童が知り、それを選択していくことができるようにしていきたい。

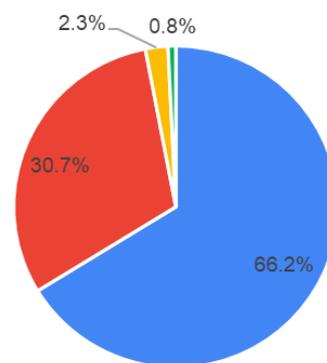
(7)学校や社会のきまりや約束事を守っていますか。

前期

<各学年>

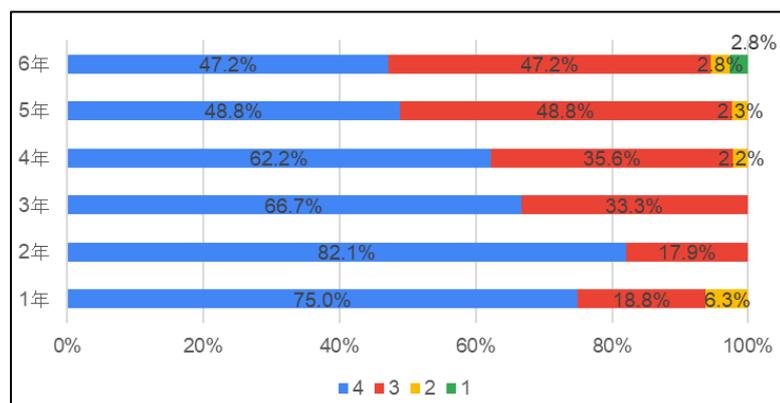


<全校>

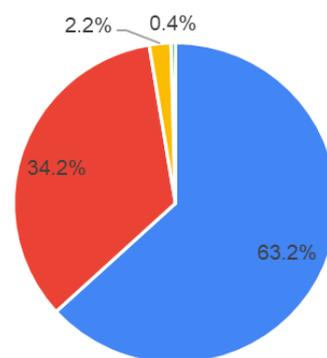


後期

<各学年>



<全校>



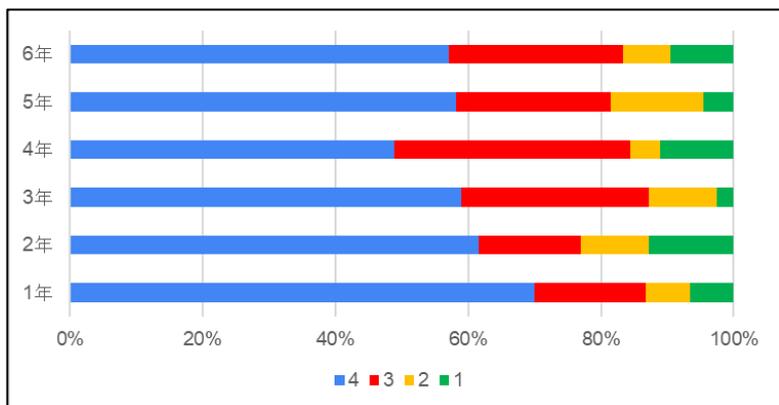
後期も、学校や社会のきまりを守ろうとする意識が強く、97%以上の児童が肯定的な回答を示している。否定的な回答が減少している学年もあり、これまでの児童会を中心とした呼びかけや生徒指導担当を中心とした教職員の指導の積み重ねが成果となって表れている。

今後も、きまりや約束事が必要な理由を考えることができるようにし、きまりや約束を守って生活することで、多くの人が気持ちよく生活することができることを実感できるようにしていきたい。

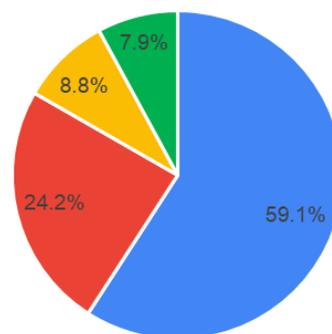
(8)学校での様子を, 家の人に話していますか。

前 期

<各学年>

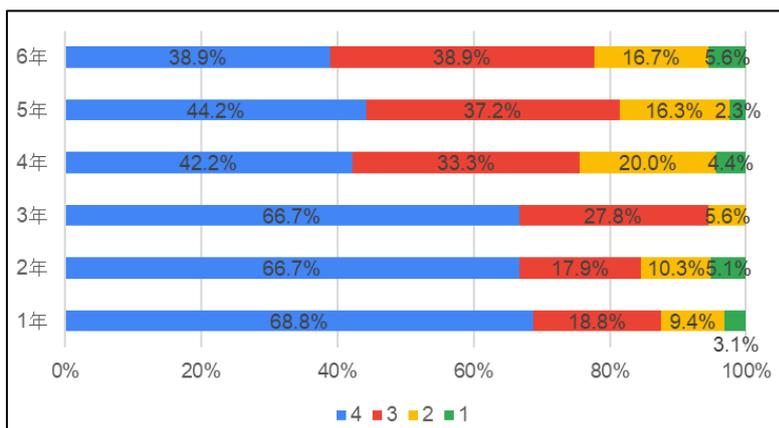


<全校>

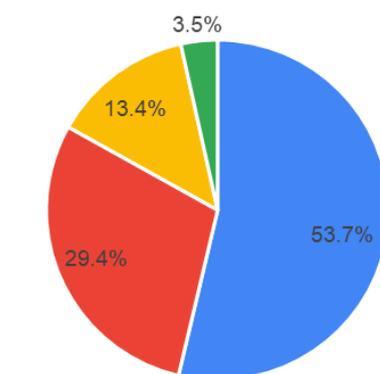


後 期

<各学年>



<全校>



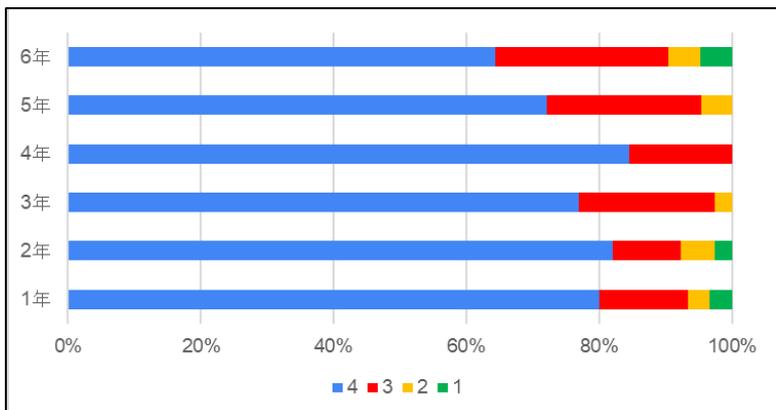
後期も、80%以上の児童が肯定的な回答をしていて、1と回答している児童が減少していることから、家に帰って学校での出来事を話している児童が多いことが分かる。2学期は、運動会や音楽発表会など、家の人と話題を共有できる行事があったからであると考えられる。

今後も学年通信などを中心に学校の様子を発信しながら家庭の協力を得る中で、児童と学校の話をする機会を増やしていくことを勧めていきたい。

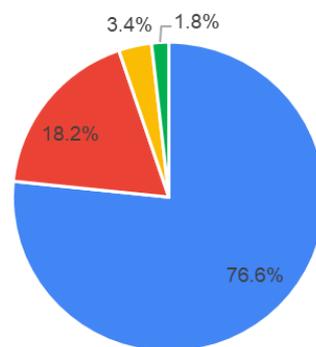
(9) 家の人に、学校からのお便りなどを渡していますか。

前期

<各学年>

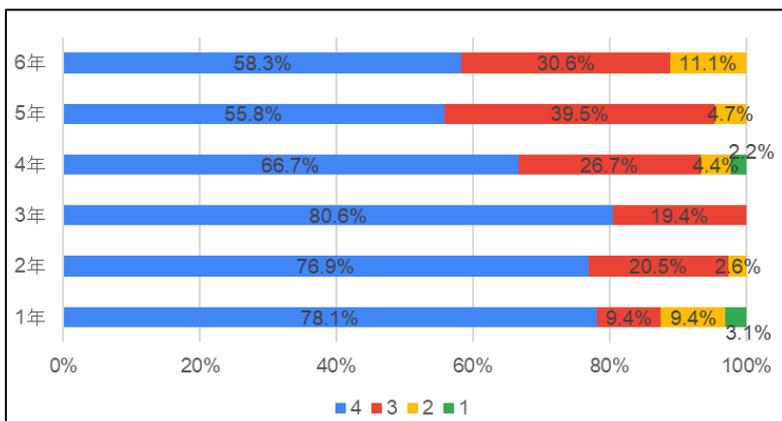


<全校>

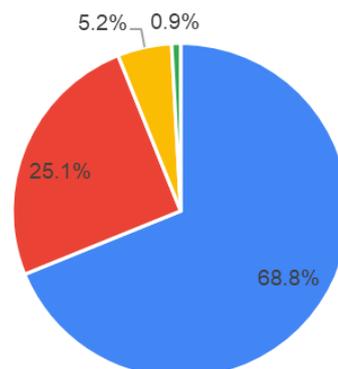


後期

<各学年>



<全校>

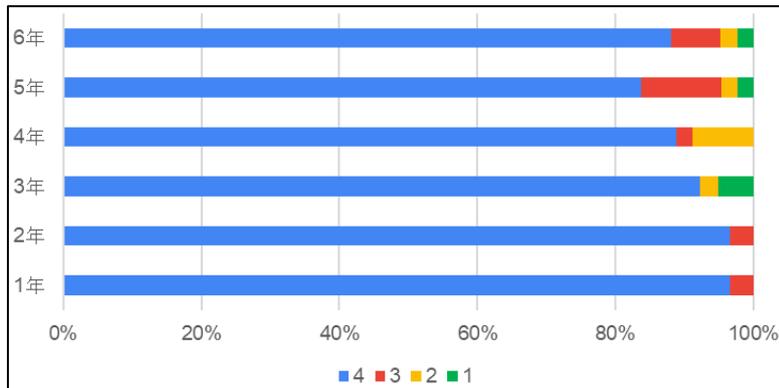


後期も多くの児童が肯定的に回答している。1, 2の回答が0%の学年もあり、学校からの文書をしっかりと家の人に見せている児童の様子うかがえる。また、保護者アンケートでも、「学校からの文書に目を通している」保護者は多く、学校からのお便りは、家庭にしっかり届いていると考えられる。学校からのお便り等が届かないと不都合が生じる場合もあるので、今後も保護者の協力を得る中で、安心メールでの配信も含め、お便り等が確実に渡るよう声をかけていき、学校と保護者との連携がさらに深まるようにしていきたい。

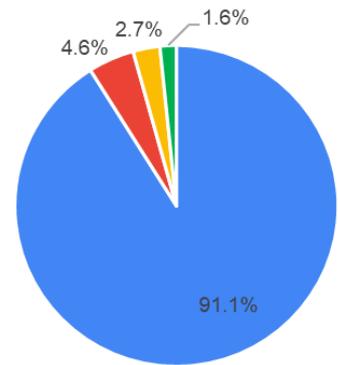
(10)朝ごはんを食べて登校していますか。

前期

<各学年>

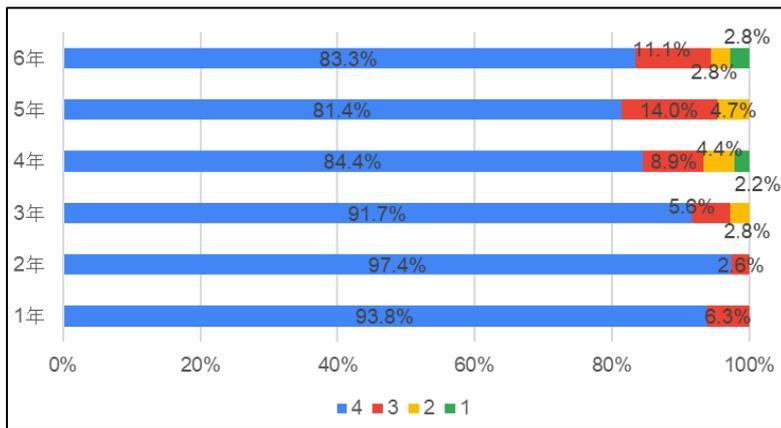


<全校>

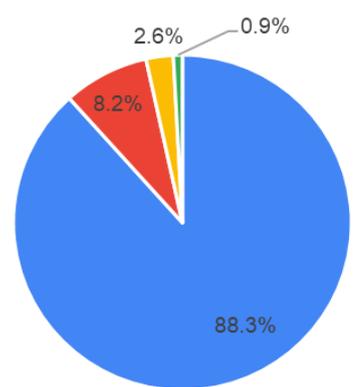


後期

<各学年>



<全校>

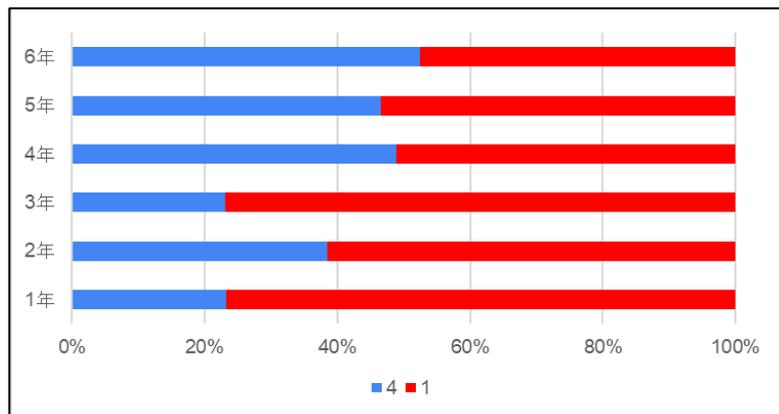


96%以上の児童が肯定的な回答を示している。朝ごはんを食べることは、時間的な余裕にもつながってくるなど、各家庭で、児童の健康についてしっかりと考えている成果であると言える。しかし、保護者アンケートの結果で見ると、「夜遅くまで起きている」と回答している保護者がいる。高学年で、4の回答が少し減少している要因と考えられる。今後も、この良い習慣が継続できるよう、基本的な生活習慣の大切さについて児童への保健指導等を通して行っていくとともに、保護者にも協力していただけるようお願い等で呼びかけるなど、引き続き取り組んでいく。

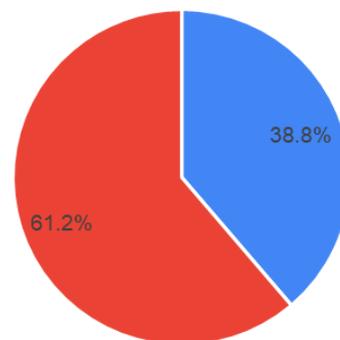
(11)自分のケータイまたはスマホを持っていますか。

前期

<全学年>

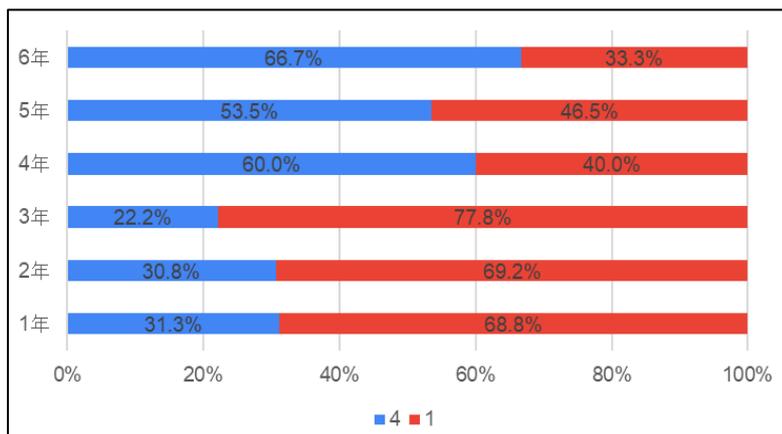


<全校>

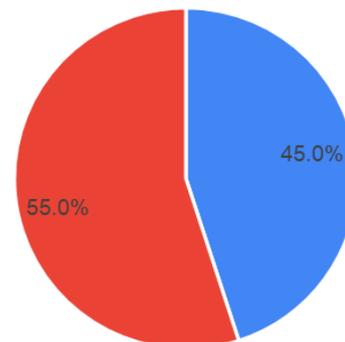


後期

<全学年>



<全校>

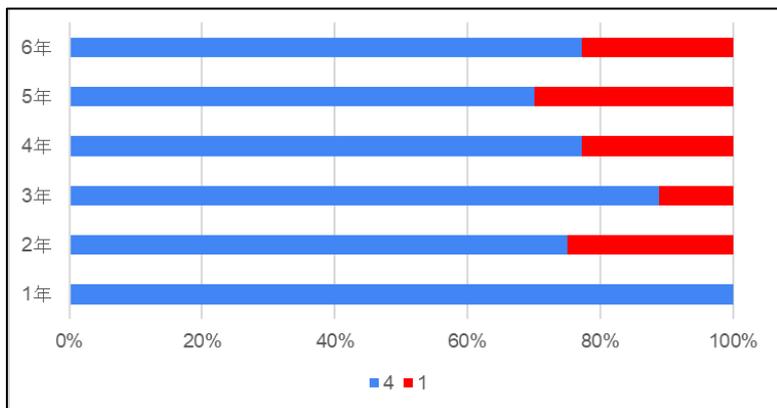


※項目 (12) と合わせて考察

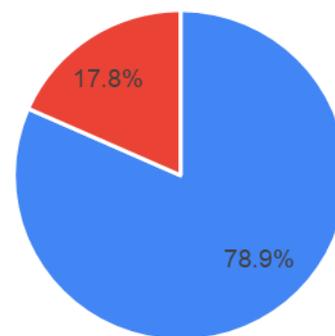
(12)ケータイまたはスマホを使う時の家のルールはありますか。

前期

<各学年>

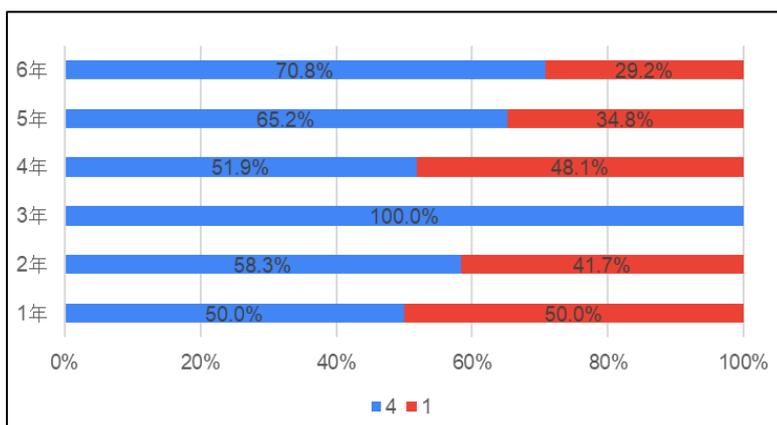


<全校>

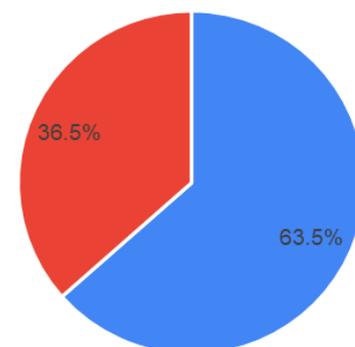


後期

<各学年>



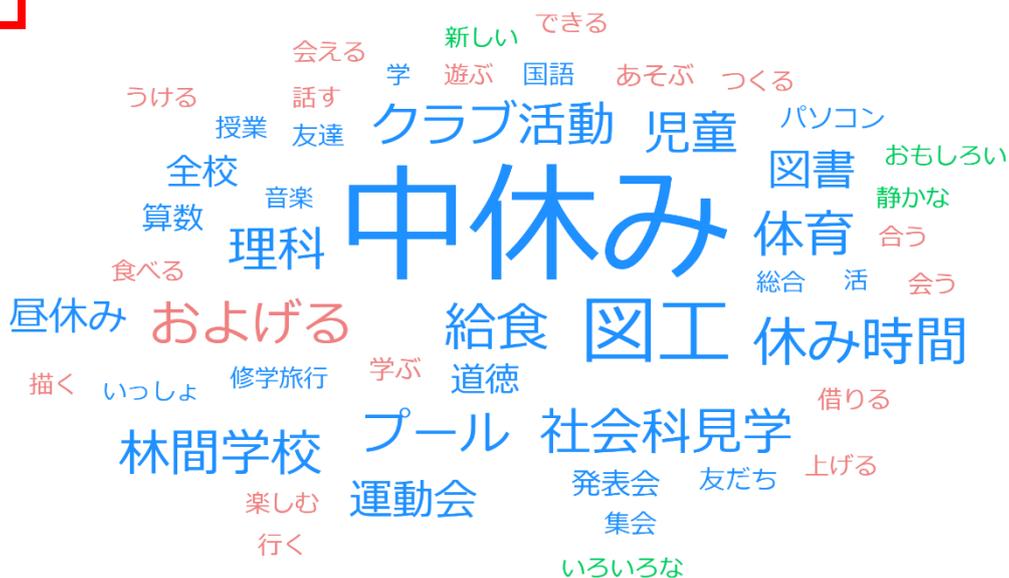
<全校>



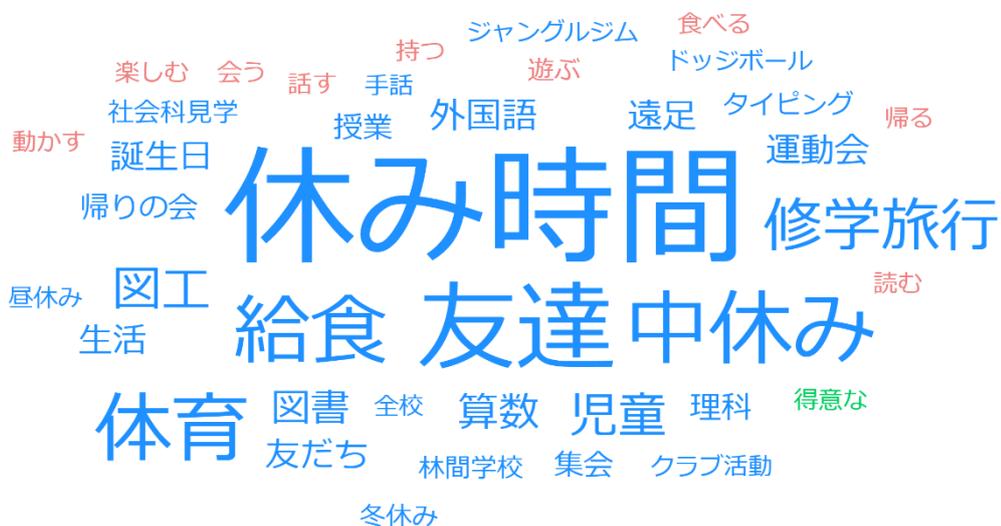
前期より、携帯電話・スマホを所有している児童が若干増加しており、中でも高学年での所持率が増加していることが分かる。また、家庭でのルールがあると回答している児童は、前期より減少している。保護者アンケートの結果と比べると、所持率、ルールの有無共に、児童アンケートとの認識の違いが見られる。低学年では、「ルールがある」と回答している児童が少ないことから、保護者がフィルターや制限等をかけて、持たせていることが考えられる。今後も、携帯電話やスマホ、SNSの使い方について、学年に応じた学習の機会を設けていくようにしたい。合わせて、保護者への啓発もさらに進めていくようにしていきたい。

(13)学校で一番楽しみなことは何ですか。

前期



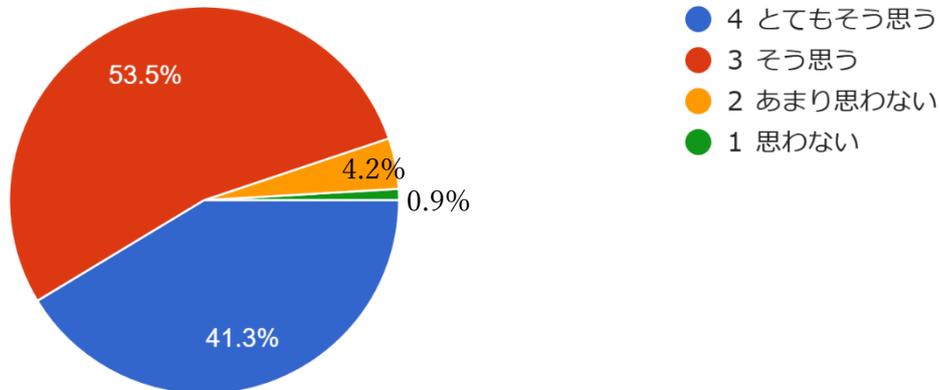
後期



休み時間や給食、行事、友達との交流を楽しみにしていることが分かる。しかし、回答の中には、各教科の時間や「学ぶこと」が楽しいと回答している児童もいて、新しいことを学ぶ充実感や面白みを感じている児童もいることが分かった。今後も、児童の実態を適切に把握し、児童の知的好奇心を揺さぶるような活動や学習を仕組んでいきたい。また、自分以外の多くの人との関わりも楽しんでいける児童を育てていけるよう取り組んでいきたい。

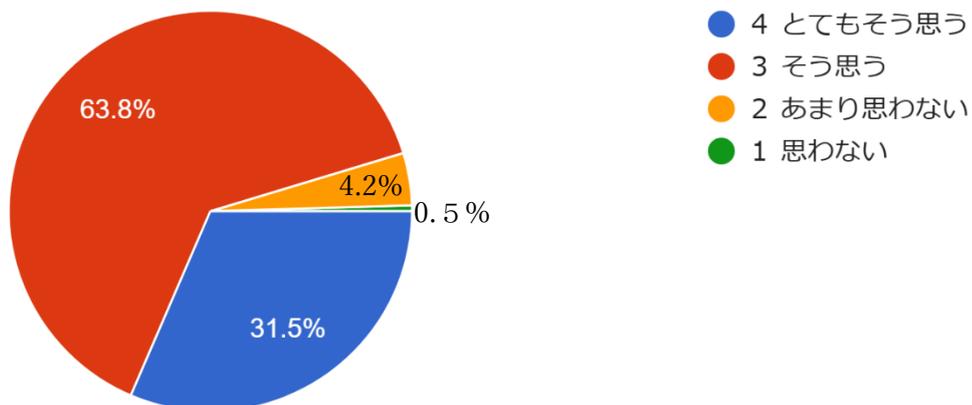
令和7年度 白根東小学校 保護者アンケート 結果・考察

1 お子さんと学校の様子などを話していますか？



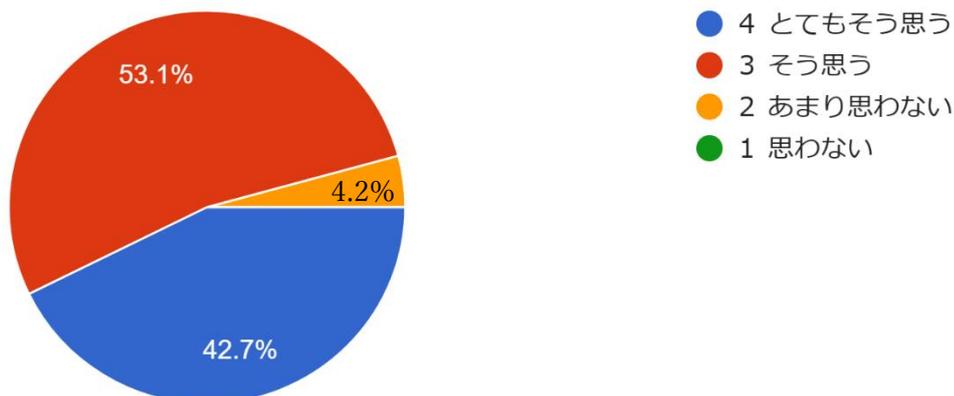
全体としては、1、2の回答少なく、大多数の保護者から肯定的な回答を得ることができた。しかし、今後も児童との会話の機会をつくることのできるよう学校からも働きかけていきたい。担任の学年・学級だより、学校だよりやHPなど他校に比べ発行頻度が高く、それらの通信の内容を通して話題提供になるような取組も考えられる。

2 お子さんにとって、学校は楽しいところだと思いますか。



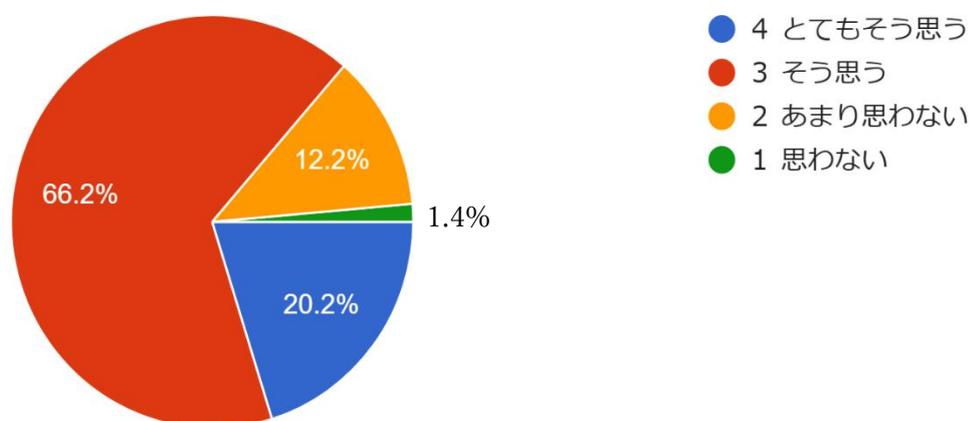
95%近くが肯定的な意見である。担任を中心に全校体制で、子供たちにかかわっている成果だと考える。しかし、1、2と回答している保護者も見られるので、引き続き子供たちへのかかわりを大切にしていくと共に、学校アンケート等を活用し、児童の様子や気持ちの把握に努めていくことが大切である。

3 お子さんは、学校に仲の良い友達がいると思いますか。



96%の保護者が肯定的にとらえている。仲の良い友達がいる子がほとんどであることがわかる。一方、2と回答している保護者が4%なので子供たち同士がお互いを知り合う取組も引き続き行っていく必要がある。朝の活動で行っている「スリンプルプログラム」(お互いのことを紹介し合う活動)も引き続き大切にしていく。

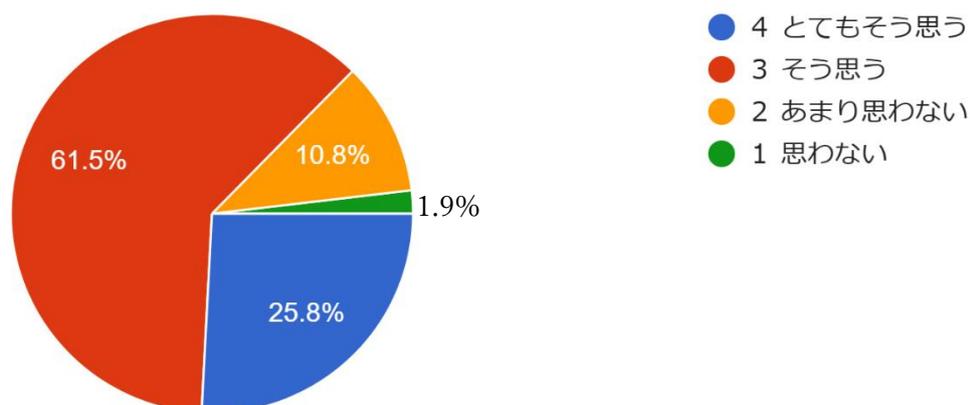
4 お子さんは、授業の内容がわかっていると思いますか。



肯定的な意見が90%近くを占めている。また、1と回答している保護者は1.4%であり、職員の粘り強い教材研究の成果が見られていることがわかる。とはいえ、個別の指導を要する子供もいるため、今後も丁寧な説明や子供たちへの指導が必要になる。

校内研究を中心に、ICT(一人一台PC)の効果的な活用も含め、子供たち一人一人に合った教育内容の提供も進めてきているので、今後も授業改善を積み重ねていきたい。

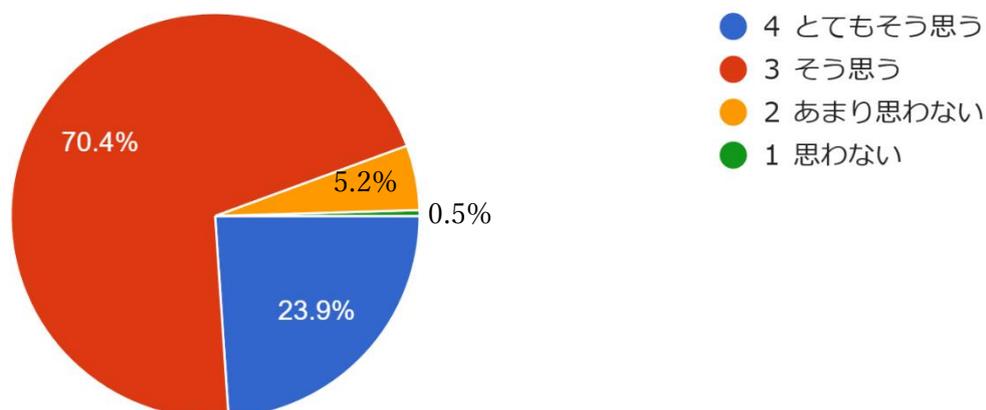
5 お子さんは、家庭で勉強する習慣がありますか（宿題・塾等も含む）。



90%の保護者が肯定的に答えている。1の回答は2%未満であり、学校全体としては家庭での学習習慣が身につけていると捉えることができる。

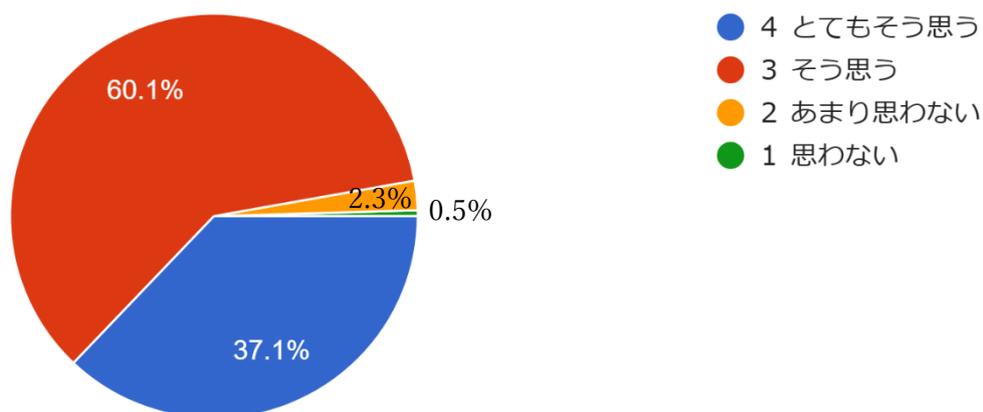
家庭学習については、宿題の内容等を各担任が工夫し、バランスよくできるようにしていること、「家庭学習がんばろう週間」の実施など、学校としての取組も充実してきているので、今後も家庭との連携を大事にしながら取組を進めていきたい。

6 お子さんには、白根東小学校の校訓「やる気・元気・根気・勇気・思いやり」が育ってきていると思いますか。



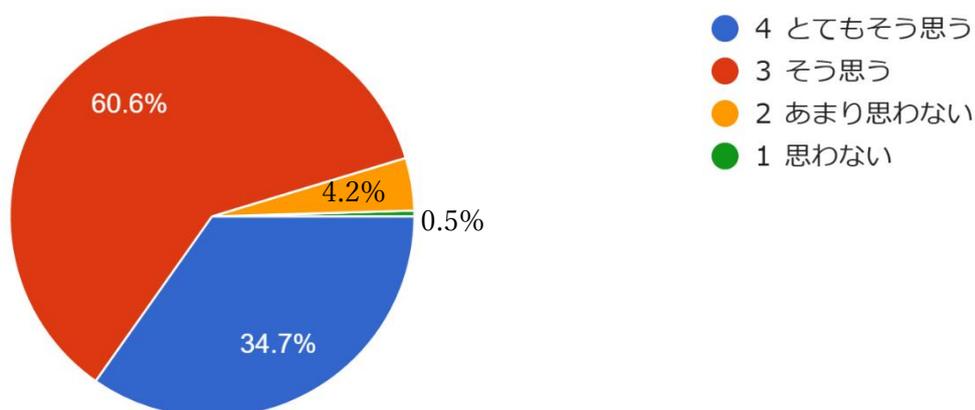
93%の保護者が肯定的に捉えている。児童のアンケートでも、95%以上の児童が肯定的に回答している点で保護者評価の裏付けとなる。それぞれの考え方については、児童会を中心に全校児童に確認をしているので、考え方については多くの児童に浸透してきている。今後は、日々の生活の中で校訓が実践力につながるよう、職員間の共通理解を図ると共に、各行事においても、それぞれの目標にかかわりを持たせながら計画を立てることが必要である。

7 学校は、子どもの良さや努力を認めていると思いますか。



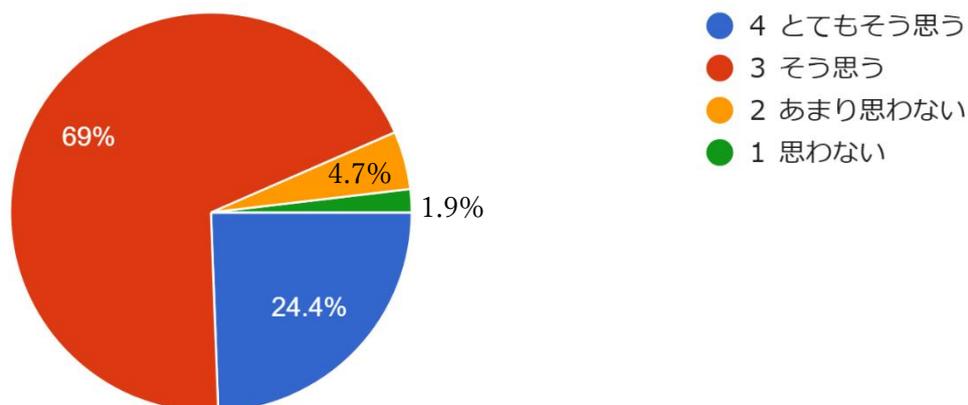
97%の保護者が肯定的な回答を示している。担任をはじめ多くの職員が、子供たちの良さを認め、それを学年だよりや学級だよりで紹介していくことで、保護者の理解を得ることができているのだと考える。子供たちの自己肯定感を高める意味でも、子供たちの良さを認め発信していく活動を続けていきたい。

8 学校は、子どもの困ったことや悩みなどに、対応していると思いますか。



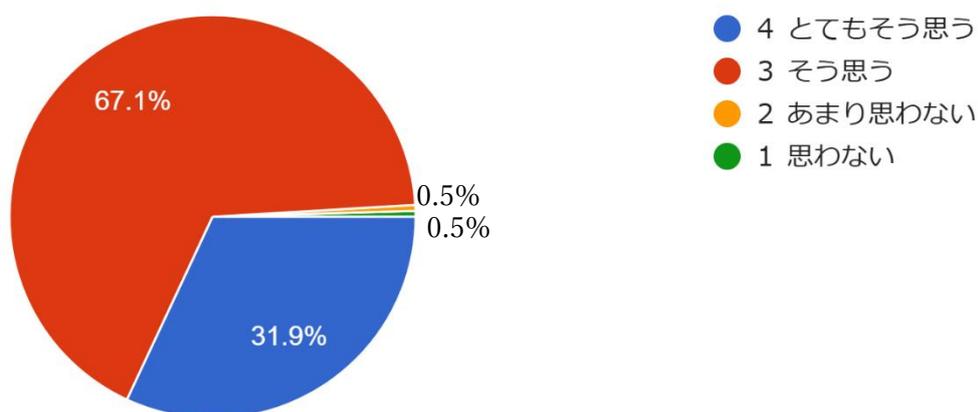
95%の保護者が肯定的にとらえている。悩みは多岐にわたるが、今後も子供たちの困ったことや悩みに丁寧に対応していく必要がある。また、引き続き児童の悩みを聞いたときには、小さなことでも保護者に連絡をとるなど、きめ細かに対応することも必要になる。

9 学校は、仲間はずれやいじめ等を認めない指導をしていると思いますか。



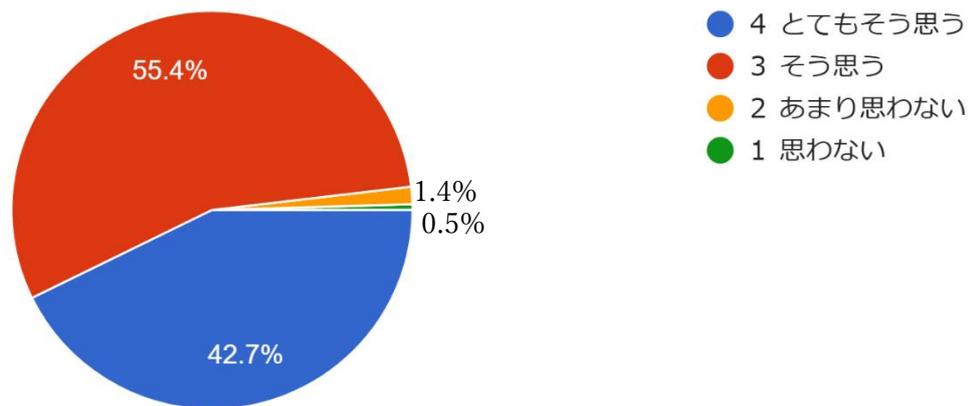
93%の保護者が肯定的にとらえている。いじめについては、職員の共通理解の下、各学年で継続的に指導を行っている。また、Q-Uや学校アンケートを通して、児童の様子を把握することも行っているため、その情報を下に、困っている児童がいたら早めに対応していく。また、各学級・学年で仲間外れやいじめを認めない雰囲気醸成していくことも必要になる。

10 学校は、子どもの安全に配慮し、安全管理及び安全指導に努めていると思いますか。



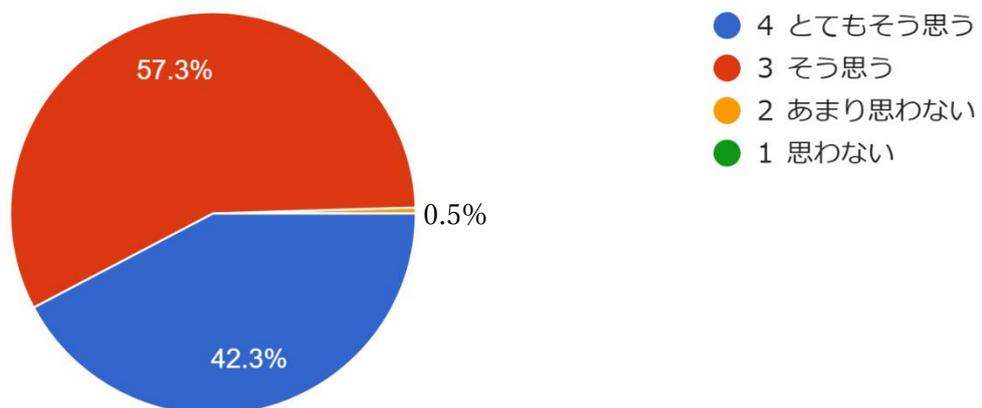
100%近い保護者から肯定的な回答が寄せられている。このことは、職員が安全に関する意識を高め、学校安全計画を基に児童への指導を行うと共に、登下校の指導を含め丁寧に取り組んできた成果だと考える。今後も保護者への情報提供を積極的に進めていきたい。

1 1 学校は、保護者の相談にいていねいに対応していると思いますか。



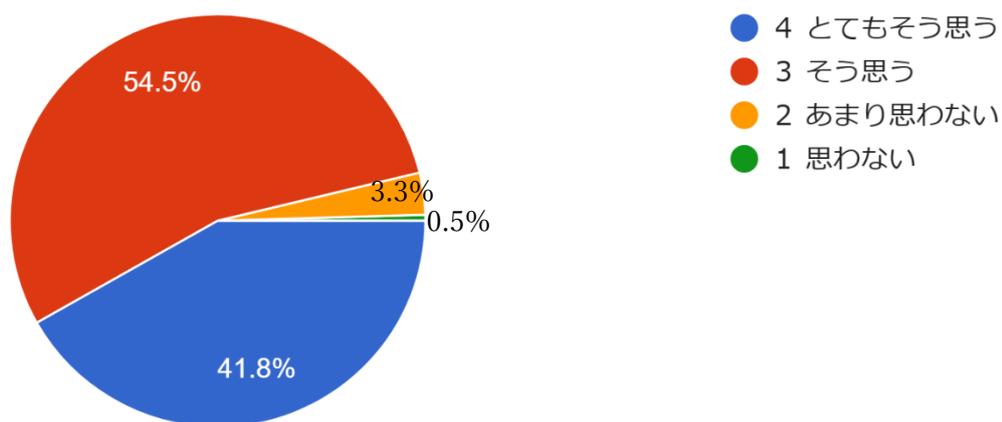
肯定的な回答が98%であり、これまでの取組の成果が表れている。各行事の感想や懇談時の要望を基に、学校運営の改善を進めてきた点については、十分に評価できると考える。1, 2と回答している保護者に対しては、保護者の気持ちを十分に聴き取ること、学校側の考えを丁寧に説明していくことが大切になる。

1 2 学校は、各種たより・メール・ホームページ等で、学校の様子を伝えていると思いますか。



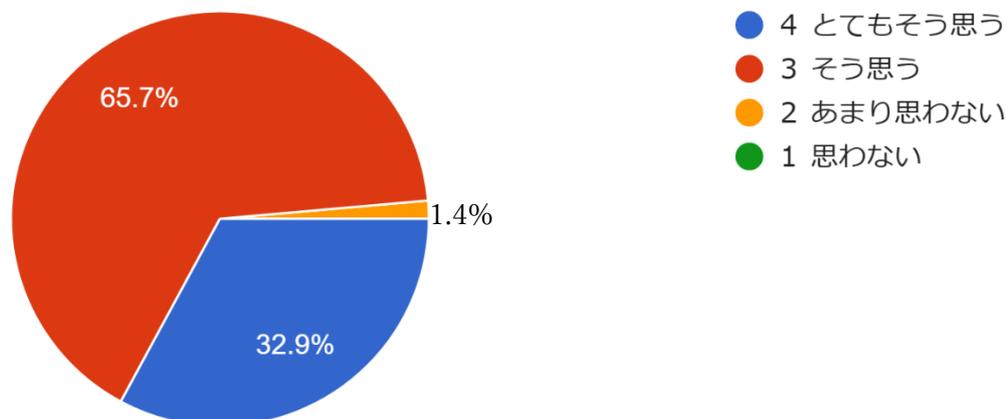
100%近くの保護者の方から肯定的な回答をいただいた。学校だより、学年・学級だより、HPの積極的な更新など、学校における日々の活動の様子を詳しく伝えてきた成果である。

13 学校からの文書には必ず目を通していますか。



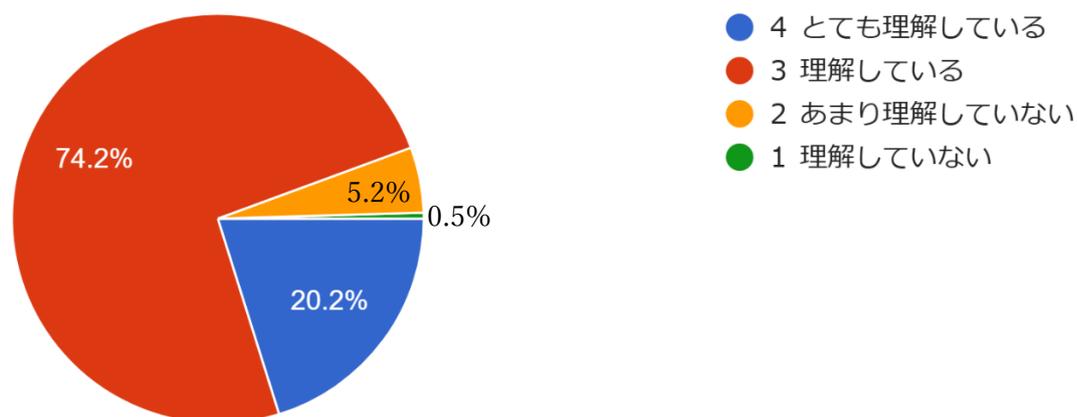
96%の保護者が肯定的にとらえている。学校からの連絡については、デジタルデータを中心に送信している。このことにより、いつでも携帯端末から各種文書を確認することもでき、こうした取組で保護者が学校の文書に目を通す機会を増やしているものとする。

14 学校は、保護者や地域と連携・協力し、より良い教育活動を進めようとしていると思いますか。



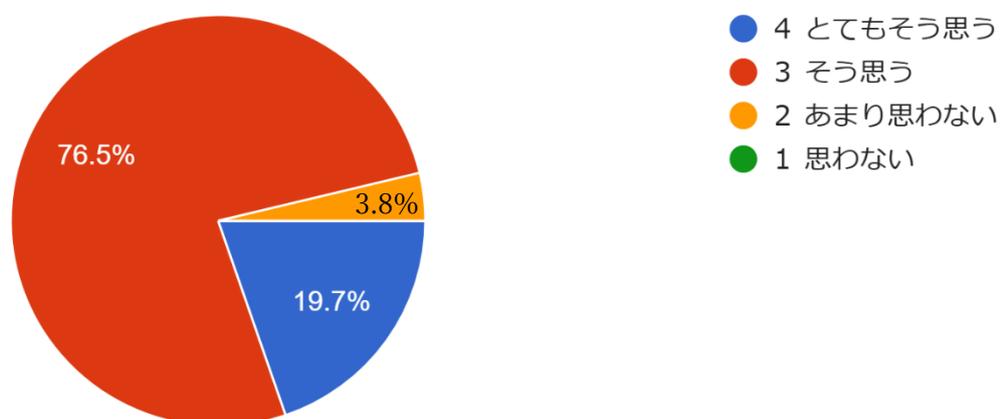
98%の保護者が肯定的にとらえている。PTAをはじめ、地域の見守り隊、教育振興会などの関係団体と連携を密にし、子供たちのことを考えながら年間を通して活動が続けられていることが評価されていると考える。引き続き、地域の意見をききながら、学校運営の改善を図っていききたい。

15 小中一貫校として、3校（白根巨摩中・白根飯野小・白根東小）が連携して行事や教科指導を行っていることを理解していますか。



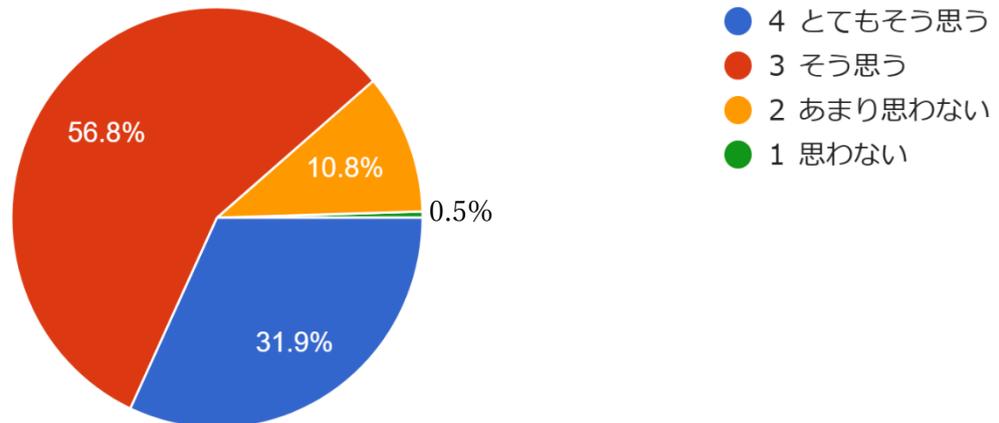
昨年度は、1，2の回答が10%を閉めていたが，本年度は6%程度にとどまっている。小中一貫教育については，毎年3校で連携を図りながら，小中学校の交流はもちろん職員同士の協働研究を進めてきている。徐々に浸透し始めているものの，今後も機を捉えて情報発信に努めていきたい。

16 学校には，教育活動に適した施設・設備が整っていると思いますか。



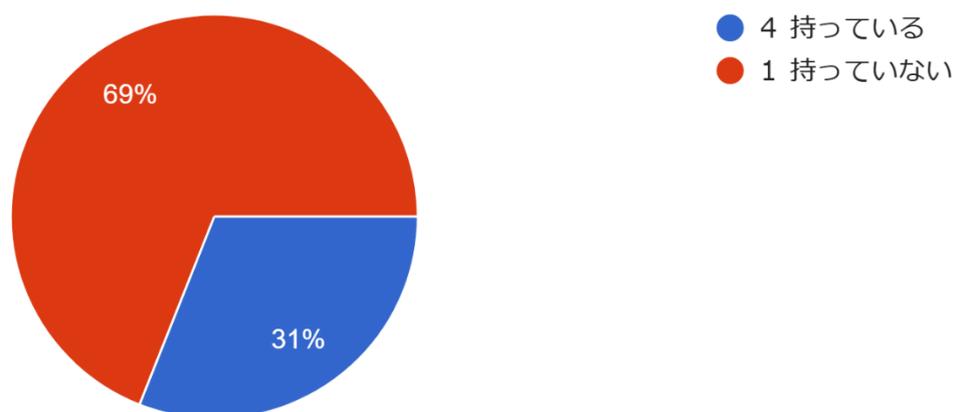
96%の保護者が，肯定的な考えをもっている。校舎を考えると市内でも古い校舎の部類に入るが，PTAをはじめ，教育振興会，地域の方々の協力を得ながら子供たちが気持ちよく生活できる施設設備の維持を行っている成果が出たものとする。老朽化している部分については，定期的な点検を基に，修繕を加える等行いながら，子供たちのための環境整備を進めていきたい。

17 お子さんは、「早寝・早起き・朝ごはん」やあいさつなどの基本的習慣が身についていると思いますか。

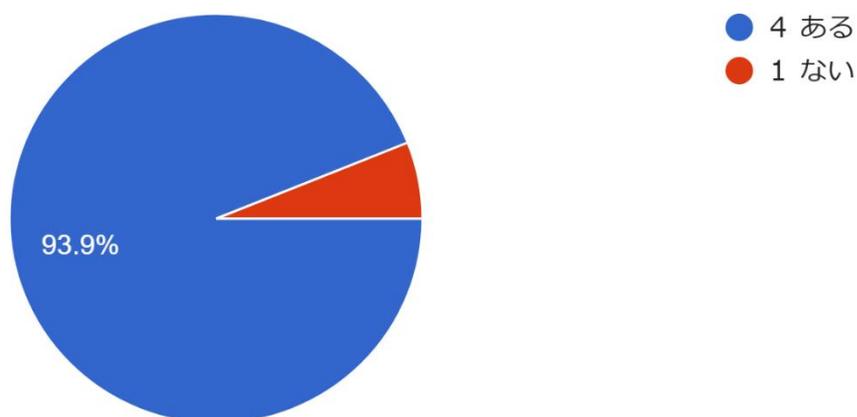


11%の保護者が、1，2の回答をしている。保健だより，学校だよりでも基本的生活習慣について発信しているものの，定着されていない実態もうかがえる。あいさつについては，児童会と連携し，朝，帰りだけではなく，授業の始め，終わりなどのあいさつも大切にしながら地道な取り組みを進めていく必要がある。

18 お子さんは、ケータイまたはスマホを持っていますか。



19 ケータイまたはスマホを使うときの家のルールがありますか。



子供たちのケータイ端末等の保有率は、昨年度とほぼ同程度である。一方、携帯を持たせているものの、ルールが決められていない家庭も見受けられる。子供たちのアンケートから見るとルールがないとらえている児童も見られる。近年、SNSの利用も含め、大きな問題となっていることもあるので、今後も使用方法等について学習は、ご家庭の協力も得ながら進めていきたい。